

2 飯田市への人の流れをつくる

別紙：提言

【「いいだ未来デザイン2028」次年度（H31）への提言】

●目標設定など

目標値	・目標値に対し、実績値がほぼ同等もしくはすでに達成されたものが多いことから、目標値の見直しを検討されたい。（竹村）
自己目標	・4つの戦略目標に対する、多少なりとも良いので年次の自己目標を示すと活動が見えてくるし、取り組みがいがあるのでは。（原）
活動対比	・29年度の戦略目標に対する取り組みがよく見えないので、今後はその活動が対比でわかるように改善すべきでは。（原）
人口	・人口ビジョン、交流人口156,6000（休日）人、定住人口96,000人を達成するための戦略として考えるかどうかははっきりさせる。そうするのならば再構築が必要と考える。（木下徳）

●田舎へ還ろう戦略

田舎へ	・20地区の取り組む「田舎へ還ろう戦略」はいいだ未来デザインの最も重要な戦略の一つであり、市民の深い理解と創造性がかかせない。自治振興センターを中心に、戦略を「見える化」するなど、必要な行政支援を行われたい。（湯澤）
魅力	・現況の年次比較で数字を追っても大きな進展は望めない。誘客戦略の核となる、飯田の魅力づくり 外から飯田の行ってみたい所、見てみたい所の創出が大事。これだけでは流れは作れない（木下克）
接点	・20地区応援隊の取り組みをふるさと会へ出てこない現役世代（特に40代・50代）との接点の創出およびPRについて検討されたい。（竹村）
ふるさと納税	・地区指定ふるさと納税制度の寄付実績において当初予算目標金額を著しく下回る結果となっている事を踏まえ、お礼状と共に各地域産の物品等を添える等の対応をするべきかどうかを、各地区の裁量で任せる仕組みを検討されたい。また地区指定ふるさと納税への納税者は地区のサポーター的な存在である、という位置づけがされる制度を検討されたい。（塚平）
ふ納税	・地区指定ふるさと納税の増額に向け、何が必要かを検討されたい。（熊谷）

●移住・観光 分析等

移住・観光	・移住者増加、交流人口増加を基本目標としている。交流人口増は移住者増につなげるため、観光産業の域外貨の獲得のためだが、戦略としてこの2つは別に取り組むべき。（木下徳）
分析差別化	・県内市町村の中でも、特に飯田市よりも移住者の多い市町村が何をしているのか分析したうえで、他市町村との差別化を図られたい。（竹村）
分析 戦略	・飯田を訪れる人の行動パターン、行動範囲などの情報分析を徹底的に行い、エビデンスを基に交流人口増大戦略を立てられたい。（湯澤）

▲移住

移住・誘引	・移住者、旅行者を誘引するための新しい地域振興策としての取り組みとして、基本目標4と連動した「コンベンションビューロー（高度な研究・誘客推進機関）」の設立を目指されたい。（井坪）
移住コスト	・移住の際のトータルコストを優位性として表し、民間業者等多様な主体との連携で発信を強化していく。具体的には工務店や不動産業者の物件紹介の中で市の在住コストの優位性を同時に発信されるような仕組みづくり等。裏付けとして政務調査で研究した明石市等の先進事例が有り、事例等の検証を進めながら検討されたい。（塚平）
移住暮らし	・UターンやIターンで移住を考えると、山や自然などあると思うが、暮らしやすさや、また子どもを産み育てやすいかということもバロメーターになると思う。基本目標を追求するために上記の生活環境整備も追求すべきではないか。（後藤）
移住暮らし	・移住者定住者の受け入れ体制として・・・移住者の当市でのより快適な生活の実現や、地域の力になってもらうために益田市のような暮らしサポーター制度の創設。（村松）
2地域	・2地域居住、飯田に住みながら他地域の事業所の仕事をするテレワーク型働き方の研究。（木下徳）
移住・就労	・移住に関わる希望事項も多様化する中、就労の場の選択肢を増やすことと共に、今ある事業所等の給与増額に民間事業者と協働して進めるべきと考える。（木下徳）
首都圏	・首都圏への情報発信において、リニア新幹線開通を見据えたターゲットエリアとして横浜等の神奈川県主要都市も視野に入れ始めていく事を検討されたい。背景として、現在の中央高速バス移動時代では行程的に飯田→東京→横浜等であるが、リニア時代は飯田→相模原→東京（品川）となり、今とは違って横浜や神奈川県主要都市が交流のポイントゲッターとなる可能性が大きく秘められる事もあり。（塚平）
首都圏関係	・都内シェアオフィス「the C」でのランチ会や座学ワークショップを通しての関係人口作りの更なる強化。（村松）
奪い合い	・移住者数の奪い合いは状況の中で示されている通りと思う。全県の中で飯田へ移住する率は低い。奪い合いに巻き込まれることなく取り組むようにされたい。（後藤）

▲観光

インバウンド	・インバウンド（海外誘客）の受け入れに対して具体的行動目標を示してもいいのではないかと。インバウンドにおいては最近地域の暮らしを体験しながら旅をする外国人の個人客が多くなってきている。農家民泊は非常に良い素材と思うので取り組まれたい。（湊）
インバウンド	・インバウンドを見据えた言語への対応（小林）
公社連携	・観光地域づくりの為南信州観光公社との連携強化。（村松）
観光 天遠	・天龍峡、遠山郷エリアの観光については、観光客を滞留させるための宿泊モデルの視点（旅館組合や農家民泊との連携など）も大切。（福澤克）
自然歩道	・「信濃路自然歩道」の再整備を検討されたい。（熊谷）
ターゲット	・ターゲットを明確にした取組が必要と考える。特に、若い女性をターゲットにした取組を検討されたい。（熊谷）
健康	・カラダにいいコト、健康的ウェルネスツアーの拡大を具体的には取り組まれたい。
〃	例：療養温泉、癒し、体験、体を動かす、食育、暮らし、スピリチュアル（自分自身を見つめなおす）（湊）
スポーツ	・スポーツ合宿も旅の目的の一つとして捉え、合宿できる場所の情報提供に取り組むことを検討されたい。（竹村）
スポーツ	・スポーツ交流と観光とを結びつけた取組を検討されたい。（熊谷）

●中心市街地・駅周

中心市街地	・中山間地域は危機感を感じる中、何とかしようとの思いが「田舎へ還ろう戦略」に繋がっている。また、リニア該当地区は、リニアによっての地域活性化や移転問題で高揚感があるが、中心市街地は、手詰まり感が払しょくされておらず、それが将来構想の策定の遅れに繋がったのではないか。（木下容）
中心市街地	・中心市街地活性化へ住民意識の向上（小林）
中心市街地	・魅力的な中心市街地の形成は大事。ただ行政は中心市街地に力点を置いて、地元住民に良くしようとする意欲がないとダメ。 → シャッター街と地区外に移住（木下克）
ピアゴ	・ピアゴ閉店への対応は市街地の空洞化対策と共に市街地で暮らす生活者の視点に立って、市がイニシアティブを取り閉店後の活用に取り組まれない。（湯澤）
駅周	・区画整理も視野に入れた駅周辺整備の取組を検討されたい。（熊谷）

●小さな世界都市・地域ブランド

小さな世界都市	・今年度のAVIAMA総会や世界人形劇フェスを契機に、 <u>小さな世界都市・飯田としての意識高揚</u> に繋がりたい。第3期中心市街地活性化基本計画の策定に当たっては、その自覚と誇りを認識できる計画策定をされたい。（木下容）
小さ・環境	・地域ブランドは小さな世界都市と環境文化都市を念頭に構築されたい。（木下徳）

1.2 リニア時代を支える都市基盤を整備する

別紙：提言

【「いいだ未来デザイン2028」次年度（H31）への提言】

●全体

	<p>・リニア関連事業は飯田市がかつて経験したことのない大規模な複合事業であり、従来の経験に頼った進め方では対応できない。飯田市の総合的マネジメント力が試されているといっても過言ではなく、リニア推進部を中心とするも庁内の英知を結集し取り組まれない。（湯澤）</p>
--	--

●移転対応

	<p>・多くの事業が同時進行で推進されるなかであっても、「地権者」への配慮を欠くことがないよう努められたい。（井坪）</p>
	<p>・駅周辺整備を始めとして用地担当者がいかに移転を余儀なくされる方の心をつかむことができるかが、今後の移転交渉が順調に進められるかのポイントになることから、この点を十分に意識した対応に努められたい。（竹村）</p>
	<p>・影響を受ける住民側にたち、住民との信頼関係構築に今まで以上に注力されたい。（湯澤）</p>
	<p>・移転を読儀なくされる方の移転先における円滑な地域コミュニティが確保できるよう方策を、市民に寄り添う意識を持って整備されたい。相談体制の強化等を検討されたい。（塚平）</p>

●駅周辺整備関連

	<p>・「長野県の南の玄関口」はある程度浸透してきた枕詞だが、飯田を基点とした視座である。萩本範文さんが提唱する「メガリージョン・オアシス」のように、県外を基点とした視座で飯田市の位置付けを点検し、都市基盤整備のデザインに反映されたい。（岡田）</p>
	<p>・リニア500m圏は飯田市の「顔」にもなるエリアであり、総合的土地利用の視点から市が主体となってインフラ整備に取り組まれない。（湯澤）</p>
	<p>・SDGsを具体的に各政策に盛り込むこと（村松）</p>
	<p>・リニア駅周辺の低炭素街区エネルギー自立街区構想を、市のエネルギーパーク化的な見地からも検討されたい。環境モデル都市としての都市力向上のためにも検討の価値があると思う。（塚平）</p>
	<p>・防音防災フードについて、景観に配慮した物とするよう検討し要望されたい。（熊谷）</p>

▲二次交通

	<p>・市民バス・乗合タクシーの利用者数が減少に転じている点について、運行時間や運行本数等から見る要因分析および分析結果をもとに利用率向上に向けた対策立案が必要ではないか。（竹村）</p>
	<p>・「歩いて楽しめるまち」「楽しみながら歩けるまち・エリア」を意識した環境整備に取り組まれない。二次交通、公共交通の充実には欠かせない視点である。まずは、例えばノーマイカーデーで徒歩や公共交通を利用して参加される方に、徒歩時でどれだけまちが見えるようになるか、わくわく感はあるか、等の調査をするところから始まらなければならないのでは。（塚平）</p>

▲新交通

	・世界で初めてのリニア新幹線とあわせ、AIやIOTによる新交通システムの構築を先乗りし、世界に先端性を示していくべき、その研究に着手されたい。（熊谷）
	・自動運転車など近未来の時代を見すえた交通対策や都市基盤整備の研究に着手されたい。（湯澤）
	・自動運転システムの実用化に向け、新交通システムに活用をできるように検討されたい（湊）
	・小澤一郎氏から提言があったように自動運転に対する検討を始めるべき リニア駅のP&R駐車場の妥当な水準規模を750台と設定しているが、地元の人にはリニア駅まで車を使っても、自宅へ。自動運転により、返送することも考えられる。そうなれば駐車場規模の設定はもっと小規模も可能である。また、公共交通も抜本的に考え直す必要がある。（木下徳）
	・自動運転による新交通システム活用に向けた研究を検討されたい。（村松）

●道路河川

	・昨年の提言事項に引き続きであるが、リニア・三遠南信自動車道関連の事業推進のために建設関連費が集中していく中、市民生活や安全にとって要望の 高い道路・河川予算措置についてどのように住み分けていくのか一定の方向を定め、地域全体の道路河川整備に不足が生じないことを考慮されたい。合わせて、自動運転による新交通システム活用に向けた研究を検討されたい。（村松）
	・地域全体の道路河川の整備に不満が生じないように取り組まれたい（湊）

●公衆無線LAN

	・公衆無線LANの整備について、地域の拠点である各自治振興センター及び公民館への設置について検討されたい。（熊谷）
	・当面Wi-Fiの環境整備は様子見ということであるが、遠山には見どころがたくさんあり、これから紅葉シーズン・霜月まつりに向かうことから環境整備を進めていくことを検討されたい。（竹村）

●その他

	・リニア駅及び周辺整備に関しては飯田市がリーダーシップをとり都市計画の視点からもハッキリ市側の考えを示されたい。（湊）
	交流人口増させるための一層の努力し検討を進められたい（湊）
	・リニア時代とは何か、リニアを中心にして生活することなのか不明。毎日リニアを利用する人が何人飯田市にできるか。1万人くらいいればリニアを中心にして考えても良いかもしれない。むしろ高齢化や人口減少を見据えて公共交通や都市基盤を整備した方が良い。（再掲）（後藤）